

道徳学習指導案（3年〇組）

- 1 主題名 「友達っていいな」（2－(3) 信頼友情）
（資料名 「いいち、にいつ、いいち、にいつ」 東京書籍）

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

第3学年及び第4学年の内容としては、以下のように位置付けられている。

2 主として他の人とのかかわりに関すること

(3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う

児童は成長するにつれ、社会とのつながりを増していく。学校の中でも、特定の気の合う友達から、多様な考えのたくさんの友達との関わりを通して、多くの経験や体験を積み、人として成長し、社会性を学んでいくと考える。

児童は、友達と関わり合い、時には意見の対立をする場合もあるが、お互いの思いや考えに共感したり、支え合ったりする過程を通して、友達の大切さを理解することができる。児童は友達の大切さを理解し合い、よさを認め合うことで、お互いの信頼を深めていく。友達との信頼を深めることで、時には、助け合い、励まし合いながら心を通わせ、友情を育てていくことができると考える。

(2) ねらいに関わる児童の実態

本校児童において、大変活発な児童が多く、何事にも一生懸命楽しみながら取り組もうとする児童が多い。反面、遊びや運動では勝敗にこだわるあまり、友達に心ない言動をとってしまう自己中心的な考えの児童もいる。自己中心的な考えが先立ってしまうことで、友達の思いや考えを理解することが難しい。また、友達に助けもらっても、お礼が言えなかったり、当たり前と思ったりして友達の思いや考えに気付かず理解できない。そのため、児童は、お互いのよさを理解したり、お互いを信頼しようとする気持ちが足りない。お互いを理解し、信頼する気持ちが持てないため、友達と協力し、助け合い、励まし合おうとする気持ちに欠けてしまう様子が見られる。

自分の思いや考えだけでなく、友達の多様な思いや考えに触れ、相手の立場を考えることが友達との友情を育てていくだけでなく、これからの児童のよりよい生活につながっていくことを理解させたいと考える。

(3) 資料について

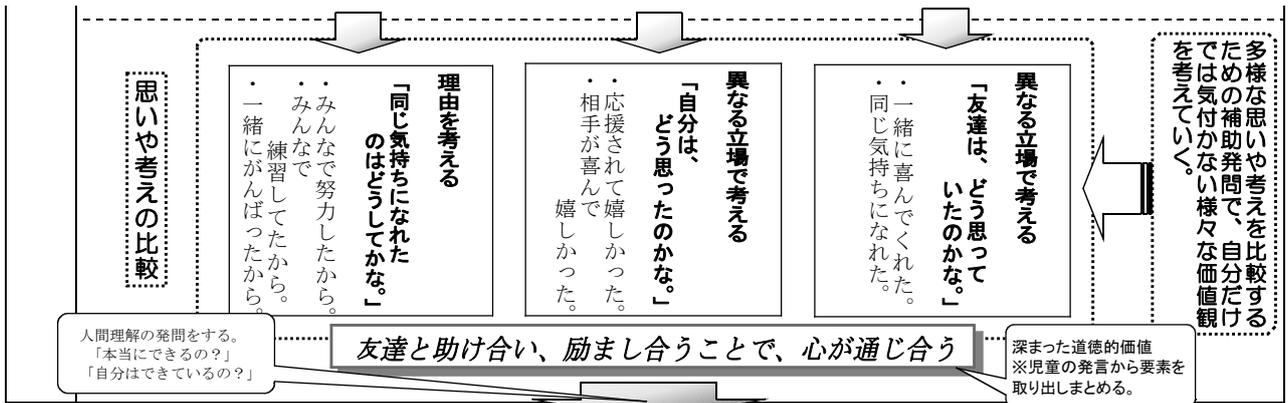
運動会の二人三脚で、主人公ちえは、足の遅い、あまり話をしたことの無いあいちゃんと組んで参加することとなる。初めのうち本心ではあいちゃんと組むことを嫌がっていたちえだが、試行錯誤で練習を重ね、少しずつ足がそろえるようになる。本番、スタートに出遅れてしまうが、あいちゃんのかげ声で走りのリズムが生まれ1番でゴール。手を取り合って喜ぶ二人の心が通い合うという資料である。あまり話したことの無いあいちゃんに、「もっとがんばって欲しい気持ち」や「励まそうとする気持ち」などの複雑な思いを持っていた。しかし、お互いが協力し、気持ちを通わせたことで1番になれたことにちえが気付いたことから、助け合うことの大切さを捉えさせやすい資料と考える。

まず、「あいちゃんとは組みたくない」と思いつつも、毎日の苦しい練習にもあきらめずがんばり続けたちえの複雑な心情から、お互いを励まし合うことの大切さに気付かせたい。次に、練習時にはちえの指示に従うだけだったが、本番では自らかけ声をかけるまでになったあいちゃんの変容に対するちえの心情を考えさせることで、友達を信頼することの大切さに気付かせたい。そして、助け合い、励まし合うことの素晴らしさについて自覚を深めさせたい。

3 指導方針

(1) 自分の思いや考えを明確にする工夫

- ・児童の日常における課題とつながった道徳的価値の自覚を深める教師の意図あるを基に、児童



人間理解の発問をする。
「本当にできるの？」
「自分はできているの？」

友達と助け合い、励まし合うことで、心が通じ合う

深まった道徳的価値
※児童の発言から要素を取り出しまとめる。

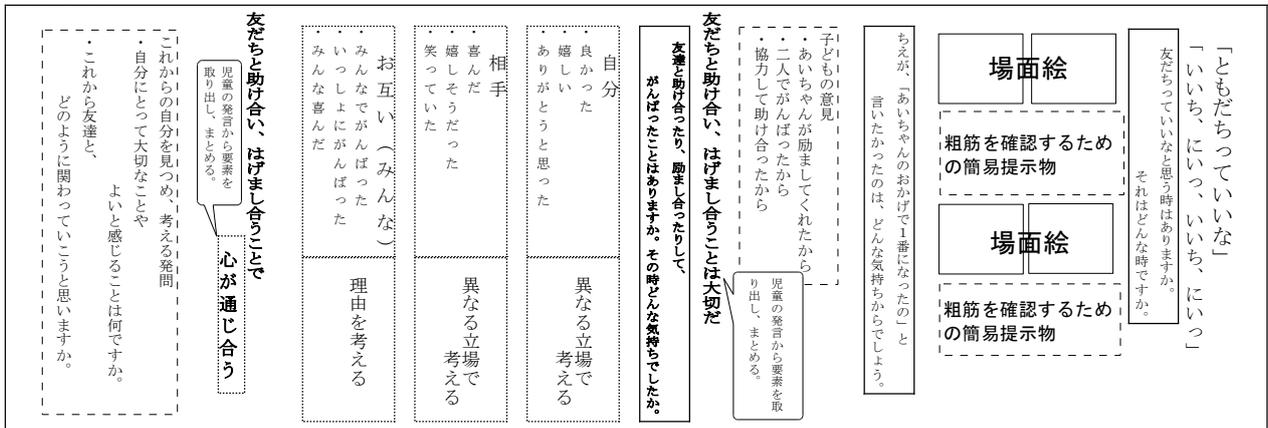
○自分を振り返る

・自分にとって大切なことや、よいと感じることは何ですか。
・これから友達と、どのように関わっていこうと思いますか。

○先生の説話

・友達と助け合い、励まし合って心を通じ合わせた話をする。

(4) 板書計画



道徳学習指導案（3年〇組）

- 1 主題名 「人のために」（4-（2） 勤労・奉仕）
（資料名 「ことぶき園に行ったよ」 東京書籍）

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

第3学年及び第4学年の内容としては、以下のように位置付けられている。

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

(2) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。

働くことの意義とは、生活の糧を得ることだけではなく、人との関わりを持てることや、仕事を通じて自分を成長させること、直接的または間接的にみんなの役に立てること等が考えられる。

人として生きていくためには、社会の中で人との関わりを持ち、働くことでみんなの役に立とうとすることが大切であるとする。これによって人としても成長し、自分が社会の役に立っているという有用感にもつながっていく。

また、社会は互いに支え合い、協力し合うことで成り立っている。自分の視点だけで仕事を捉えようと、仕事への負担感や強制感が強くなってしまう。自分だけの視点だけでなく、相手の視点やお互いの視点を取り入れ、自分が人のために進んで仕事をする中で、お互いに嬉しい気持ちを共有化することができる。

児童には、係、日直、当番、お手伝いなどの日常の中での体験から、自分の働きが直接的または間接的にクラスの友達役に立っているということを理解させる。その働きによってクラスの友達に喜んでももらえることが、自ら進んで働こうとする原動力になることに気付かせていきたい。

(2) ねらいに関わる児童の実態

本校児童において、大変活発な児童が多く、何事にも興味関心を持って取り組むことができる。そのため、新しい仕事を見付けたり、仕事を頼まれたりすると、一生懸命楽しみながら取り組もうとする児童が多い。反面、クラス内で決められた係や当番などは、単調になったり、強制感が働いたりして興味・関心が薄れてきてしまうと仕事への責任感も薄れてしまう様子が見られる。結果、自分の都合を優先してしまい、仕事を後回しにしてしまったり、忘れてしまったりする児童もいる。

また、注意されるから、叱られるから、何かをもらえるからといった他律的な理由で仕事をする児童も多い。そのため、児童は、人に言われなければ自分から仕事をすることができなかつたり、何かしらの見返りが無い仕事にはやる気が起きなかつたりする。

自ら進んで仕事をするのが、何かしらの形で自分の周りの人たちの役に立ち喜んでもらっている。そのことから友達の笑顔や喜ぶ姿が自分の喜びとなり、自ら進んで働こうとする原動力となることに気付かせたい。そして、やがてはそれが児童のよりよい生活につながっていくということを理解させたい。

(3) 資料について

母親の仕事の付き添いで老人ホーム「ことぶき園」を訪れる主人公渚。一度見てみたいという興味本位であったが、母親やお年寄りのお手伝いをするうち楽しさを感じるようになる。お年寄りの楽しそうな姿に喜びを感じる渚だったが、お年寄りに本当に喜んでもらうためにことぶき園の職員の人たちが大変な努力をしていることに驚くとともに、次に来るのが楽しみになった。

この資料は、主人公が興味本位で手伝いはじめた仕事であったが、些細なお手伝いでもお年寄りが喜んでくれることを知り、自分の仕事人が人を喜ばせることで、自分が人の役に立っていることを実感し、進んで仕事に取り組んでいこうとする大切さを捉えさせることができる資料である。

まず、難しくない仕事でもお年寄りのために仕事をする、その結果とてもお年寄りに喜んでもらえることから、人のために働くことの楽しさや喜びに気付かせたい。次に、ことぶき園のお年寄りを支えているのは、職員の方々であり、お年寄りのために一生懸命仕事をしている姿に驚きと尊敬の気

持ちを持つ主人公に共感させたい。そして、自分の周りの人たちのために一生懸命誇りを持って仕事をする事で、自分の周りの人たちに喜んでもらうことができる。自分の周りの人たちに喜んでもらうことが、今度は自分の働く喜びにもつながることから、進んで働くことの大切さについて児童に自覚を深めさせたい。

3 指導方針

(1) 自分の思いや考えを明確にする工夫

- ・児童の日常における課題とつながった道徳的価値の自覚を深める教師の意図あるを基に、児童の発言を予想し、整理して板書することで、可視化することができ、自分の思いや考えを明確にできるようにする。

(2) 互いの思いや考えを比較する工夫

- ・分類された児童の思いや考えを基に、比較のための補助発問を使って、他者の思いや考えを利用して比較し、相手の立場で考えることで、相手の思いや考えのよさを自分の中に取り込み、自分の考えをより深められるようにする。

(3) 自分を振り返り、自己理解を深める工夫

- ・他者の考えを取り入れて、自分の思いや考えの変容や、自分にとってどんな考えが役に立ったかを考えることで、児童が自らの成長を実感し、これからの自分の課題や目標を見付けられるようにする。

4 研究とのかかわり

本研究においては「道徳的価値を自分のこととして考える授業構想の工夫」を研究主題とし、「自分を見つめるための話し合い活動を通して」を副主題に研究を進めてきている。

本時は、道徳的価値を自分ごととし、考えが深まる児童の育成を目指すため、道徳的価値の捉えを基に、他者と関わりながら、自分の思いや考えを明確にし、自分と相手の互いの立場で比較し、自分を見つめる話し合い活動を取り入れることの有効性を、児童の発言やワークシート等を通して検証する。

5 本時の展開

- (1) ねらい 進んで、働くことの大切さを理解しようとする心情を育てる
- (2) 準備 ワークシート 場面絵 提示物
- (3) 展開

| | |
|-----------------|--|
| 導入 3分 | <p>「係、日直、当番やお手伝い（家なども）など、すすんでやっていますか。それはなぜですか。」</p> <p>○児童の日頃の係や日直、当番などへの仕事ぶりに触れる。写真等の提示も効果的。 ○アンケートを採り、提示する。等</p> |
| 展開 前段 15分 | <p>○資料のあらすじを確認しながら、主人公の心情に触れる。</p> <p>わたしは「こんど来るのが楽しみになっちゃった。」と言っていますが、なぜそう思ったのでしょうか。</p> <p>☆発言予想 ・働くことが嬉しい ・人のために働く人たちに会いたい ・おじいちゃんたちに会いたい ☆捉えたい道徳的価値 進んで、働くことの大切さ ※児童の発言から要素を取り出しまとめる。</p> |
| | <p>○資料から離れ、自分を見つめるための話し合い</p> <p>人のために進んで働いて、よかったと思うことはありますか。その時どんな気持ちですか。</p> |

展開後段 20分

児童が書き込んだワークシートから、視点を基に児童の思いや考えを分類していく。

◎自分の視点

- ・嬉しかった。
- ・楽しかった。
- ・がんばった。

◎相手の視点

- ・喜んでくれた。
- ・嬉しそうだった。

◎お互いの視点

- ・嬉しかった。
- ・笑い合った。
- ・喜び合った。
- ・一緒に喜んだ。

多様な思いや考えを比較するための補助発問で、自分だけでは気付かない様々な価値観を考えていく。

異なる立場で考える
「相手はどんな気持ちだったと思う」

- ・相手も喜んだと思う。
- ・「ありがとう」という気持ちだと思う。

異なる立場で考える
「自分はどんな気持ちだったか」

- ・よかったと思った。
- ・自分も一緒に嬉しい。

理由を考える
「なぜ自分も嬉しいと思ったか」

- ・人が喜ぶと気持ちいいから。
- ・自分のした事が人を喜ばせたから。

人理解の発問をする。
「本当にできるの？」
「自分はできているの？」

人のために働くことで、自分も嬉しくなる

深まった道徳的価値
※児童の発言から要素を取り出しまとめる。

○自分を振り返る

- ・ 友達の意見を聞いて、「すごいな」という考えや「自分にもできるかも」という意見がありましたか。
- ・ 今日の学んだことを、これからの生活にどのように生かしていきたいですか。

○先生の説話

- ・ 人の役に立って、嬉しかった話をする。

終末 7分

(4) 板書計画

「人のために」
「ことばき園にいったよ」
探検日誌、当番の仕事、すすんでやっていますか。それはなぜですか。」

アンケートからグラフ

アンケートの記述

場

面

絵

顔絵
簡易掲示物（渚の心情変化）

「子どもたちの意見」
「働くことが嬉しいから」
「人のために働く人に会いたい」
「おじいちゃんたちに会いたい」
児童の発言から要素を取り出し、まとめる。

「人のために働くこと」は大切
「人のために働いてよかったです」と思っていますか。それはどんなときですか。

（自分が）
・ほめられた
・嬉しい
異なる立場で考える

（相手が）
・喜んでくれた
・笑顔だった
異なる立場で考える

（お互い）
・一緒に嬉しい
・お互い笑顔
理由を考える

人のために働くことで自分も嬉しくなる
これからの自分を見つめ、考える発問。
・友達の意見を聞いて、自分の考えが変わりましたか。
・どのように変わりましたか。
友達のどんな意見が自分の役に立ちましたか。

児童の発言から要素を取り出し、まとめる。

道徳学習指導案（3年〇組）

- 1 主題名 「家族っていいな」（4-（3） 家族愛）
（資料名 「ぼくのおばあちゃん」 東京書籍）

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

第3学年及び第4学年の内容としては、以下のように位置付けられている。

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

(2) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。

家族とは、社会を構成する最小限の社会集団であり、家族全員が協力し合って生活する場を家庭という。家庭は家族一人一人が協力して生活を成り立たせる場でもあるが、互いに打ち解け、自分自身のありのままの姿を見せられる場でもある。

家族は血縁で結ばれた集団であり、愛情という絆で強く結ばれている。それが故に、時として家族に甘えてしまい、お互いのわがままを通そうと気持ちを衝突させてしまうことも多々あると考えられる。

家族として、よりよい家庭を築くためには、家族一人一人が家族のため家庭のために、進んで協力し、家族と関わっていきこうとすることが大切であると考え。これによって家庭においても自分の居場所や為すべき役割を持つことができ、自分が家族のために役に立っているという自己有用感を育むこともできる。

また、家庭は互いに支え合い、助け合うことで成り立っている。自分の視点だけで考えると、家庭への協力は強制感や負担感が強くなってしまう。自分の視点だけでなく、他の家族の視点やお互いの視点を取り入れ、自ら進んで家族のために協力することで、お互いに喜びや嬉しさを共有することができる。と考える。

児童には、家でのお手伝いや家族とのやりとりなどの日常の中での体験から、自分の言動がどのように家族と関わっているのか、役立っているのかを理解させる。そして、自分も家族の一員であるという自覚が、自ら進んで家族や家庭に協力し、明るくしていきたいと行動していく原動力になることに気付かせていきたい。

(2) ねらいに関わる児童の実態

本校児童において、家族のことを聞くと、家庭での状況を詳細に話してくれる児童が多い。家族のことは大好きで、家庭で愛情を受けて育っていると感じられる児童も多い。反面、「～へ連れて行ってもらって嬉しかった。」「～を買ってもらった嬉しかった。」と、自分が何かをしてもらうのが当たり前と捉えている児童も多い。

また、家庭内での自分勝手な振る舞いや言動で家族を困らせたり、嫌な思いをさせたりすることもあり、大切にしてもらっていることで「自分は何をやっても許される」と思い違いをしてしまう児童も見られる。

家族がいるから自分がいるという家族を大切に思う気持ちや、家族がいるから毎日楽しく、笑顔で生活できているという感謝の気持ち、家族の一員として自分も存在しているということに気付かせたい。そして、家族の笑顔や喜ぶ姿が自分の喜びとなり、自ら進んで働こうとする原動力となることに気付かせ、やがてはそれが児童の家族と家庭でのよりよい生活につながっていくことを理解させたい。

(3) 資料について

主人公おさむは、習字教室に通っている。おさむの作品に感化されたおばあちゃんが一緒に習字を習い始めることとなり、おさむは複雑な心境になる。毎日一生懸命練習を重ね、上達するおばあちゃんのことを、あまり熱心でないおさむは疎ましく思うようになる。しかし、ある日おばあちゃんが突然目の病気で習字の練習ができなくなってしまう。練習できずに落ち込むおばあちゃんを見ておさむ

は、自分が代わりに練習しておばあちゃんを元気づけようとする。おばあちゃんが喜ぶ姿を見て、おさむは家族がお互いに大事にし合い、助け合うことの大切さに気づき、家族の一員として協力していこうとする心情を育む資料である。

この資料は、病気で習字を練習できない祖母の代わりに自分が連取に励むことで祖母を元気づけようとする。家族で支え合うことの喜びを実感し、自ら進んで家族と協力し、明るい家庭を築いていくことの大切さを捉えさせる。

まず、一生懸命に習っていた習字が病気のためにできなくなり落ち込んでしまう姿を見て、放っておけなくなり自分にも何かできないかと考える主人公の優しい気持ちに共感させたい。次に、中途半端でやる気のなかった習字を、おばあちゃんの代わりにがんばることで、おばあちゃんを元気づけてあげようとする姿に、家族を支えようとする嬉しさや喜びに気付かせたい。そして、元気になったおばあちゃんと一緒に練習し、お互いに高めていこうとする姿に、家族に喜んでもらうことの大切さを理解させたい。家族の喜びが、自分の喜びにもつながることから、自ら進んで笑顔で明るい家庭を築くことの大切さについて自覚を深めさせたい。

3 指導方針

(1) 自分の思いや考えを明確にする工夫

- ・児童の日常における課題とつながった道徳的価値の自覚を深める教師の意図あるを基に、児童の発言を予想し、整理して板書することで、可視化することができ、自分の思いや考えを明確にできるようにする。

(2) 互いの思いや考えを比較する工夫

- ・分類された児童の思いや考えを基に、比較のための補助発問を使って、他者の思いや考えを利用して比較し、相手の立場で考えることで、相手の思いや考えのよさを自分の中に取り込み、自分の考えをより深められるようにする。

(3) 自分を振り返り、自己理解を深める工夫

- ・他者の考えを取り入れて、自分の思いや考えの変容や、自分にとってどんな考えが役に立ったかを考えることで、児童が自らの成長を実感し、これからの自分の課題や目標を見付けられるようにする。

4 研究とのかかわり

本研究においては「道徳的価値を自分のこととして考える授業構想の工夫」を研究主題とし、「自分を見つめるための話し合い活動を通して」を副主題に研究を進めてきている。

本時は、道徳的価値を自分ごととし、考えが深まる児童の育成を目指すため、道徳的価値の捉えを基に、他者と関わりながら、自分の思いや考えを明確にし、自分と相手の互いの立場で比較し、自分を見つめる話し合い活動を取り入れることの有効性を、児童の発言やワークシート等を通して検証する。

5 本時の展開

- (1) **ねらい** 家族の一員として、家族を大切にしようとする心情を育てる
- (2) **準備** ワークシート 場面絵 提示物
- (3) **展開**

導
入
3
分

あなたが「家族がいてよかったな」と思うのは、どんな時ですか。

○家族の団らんや家族と遊びに行ったこと等、家族の触れ合いを想起する。写真等の提示も効果的。

○アンケートを採り、提示する。 等

展開前段 15分

○資料のあらすじを確認しながら、主人公の心情に触れる。

おさむがおばあちゃんの代わりに書いてあげたくなかったのは、どんな気持ちからだと思いますか。

☆発言予想 ・おばあちゃんに負けたくない ・おばあちゃんの方ががんばりたい ・おばあちゃんの気持ちが分かった

☆捉えたい道徳的価値 **家族の一員として、家族を大切にする** ※児童の発言から要素を取り出しまとめる。

展開後段 20分

○資料から離れ、自分を見つめるための話合い

あなたが「家族がいてよかった」と思うのはどんな時ですか。その時どんな気持ちですか。

分類した思いや考え

④「自分も家族も（お互い）」の視点

- ・嬉しくなる。
- ・楽しくなる。
- ・一緒にがんばれる。
- ・励まし合える

③「家族が」の視点

- ・喜んでくれた。
- ・楽しそう。
- ・嬉しそう。
- ・笑顔になった。

◎「自分が」の視点

- ・嬉しい。
- ・良かった。
- ・楽しかった。
- ・さびしくない。
- ・励まされた。

児童が書き込んだフックシートから、視点を基に児童の思いや考えを分類していく。

思いや考えの比較

理由を考える
考えを深める
「どうして自分が嬉しい」と家族も嬉しいの
「家族って誰のこと、あなたは入っているの」
家族だから。
家族が大切だから。
父、母、姉、兄、妹、弟、祖父、祖母、自分

異なる立場で考える
「自分は楽しかったの」
「家族はなぜ喜んでくれたのかな」

- ・一緒に嬉しい
- ・一緒に楽しくなる
- ・自分が喜んだから
- ・自分が楽しそうだったから

異なる立場で考える
「家族は」
どう思っているかな

- ・嬉しいと思ってる
- ・励ましてあげたいと思ってる
- ・元氣付けたい。

多様な思いや考えを比較するための補助発問で、自分だけでは気付かない様々な価値観を考えていく。

人間理解の発問をしたい。「本当にできるの?」「自分はできているの?」

家族の一員として家族を大切にすることで家庭が笑顔になる

深まった道徳的価値
※児童の発言から要素を取り出しまとめる。

○自分を振り返る

終末 7分

・今日の話合いで、「すごいな」という考えや「自分にもできるかも」という意見がありましたか。

・これから家族のために、どんなことをしていきたいですか。

○先生の説話

・家族がいてくれてよかった話をする。

(4) 板書計画

「家族っていいな」「ぼくのおばあちゃん」「あなたが「家族がいてよかったな」と思うのは、どんな時ですか。」

場面絵

簡易揭示物 (おさむの心情変化)

場面絵

簡易揭示物 (おさむの心情変化)

「おさむがおばあちゃんの代わりに書いてあげたくなかったのは、どんな気持ちからだと思いますか。」

子どもの意見
・おばあちゃんの方ががんばりたい
・おばあちゃんに負けたくない
・おばあちゃんの方が分かった

児童の発言から要素を取り出し、まとめる。

| | | | |
|---|--------------------------|---|------------------|
| <p>(相手が)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喜んでくれた ・嬉しそう ・笑顔 | <p>異なる立場で考える</p> | <p>(自分が)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほめられた ・嬉しい | <p>異なる立場で考える</p> |
| <p>「お互い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に嬉しい ・お互い笑顔 ・励まし合える | <p>理由を考える 考えを深める</p> | <p>「家族の一員として家族を大切にする」</p> | <p>家族が笑顔になる</p> |

これからの自分
今日の話合いで「すごいな」という考えや「自分にもできるかも」という意見がありましたか。これから家族のために、どんなことをしていきたいですか。

児童の発言から要素を取り出し、まとめる。

道徳学習指導案（3年〇組）

平成28年11月 2日 第3校時 3年1組
指導者 川田 憲廣

- 1 主題名 「温かな心」（2-2）思いやり、親切
（資料名 「六べえじいとちよ」 東京書籍）

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

第3学年及び第4学年の内容としては、以下のように位置付けられている。

2 主として他の人とのかかわりに関すること

(2) 相手のことを思いやり、進んで親切にする。

この時期の児童は、自分を中心とした小さな集団から、大きな集団へ関わっていこうとする。学校の中でも仲の良い友達から、たくさんの様々な考えの友達と関わるようになり、「自分中心」という考えから、様々な他者と関わり集団を広げていこうとする楽しさに気付くようになる。

同時に様々な他者と関わり、円滑な人間関係を築くためには、自分の思いや考えを理解してもらいだけでなく、多様な思いや考えを知り、相手の思いや考えを理解しようとする思いやりが必要不可欠である。

思いやりとは、相手を理解し、相手の喜びや哀しみ、苦しみを感じ取り、自分の心と共感させていくことと考える。他者と共感できた時、人と人とのつながりのよさを知り、心の温かさを感じることができる。そして児童は温かい心で人に接することの大切さを自覚することができる。そのため、児童には、日常の中での体験で、困った人にどのように接したか、また自分が困った時どのようにしてもらったなどの経験を思い出させていく必要がある。

そして、親切とは直接的に助けることだけではなく、温かく見守ることや、相手の立場に立った励ましの声をかける等の行為も親切である。相手に親切にするということを安易に考え、軽率な行動を取ると、相手に嫌な思いをさせたり、親切を押し付けて困らせてしまったりすることがある。そのためには、相手の立場や気持ちを深く考え、本当に相手のことを思いやった行動をとることが大切である。

相手の困っている様子に共感し、思いやりの気持ちを思っ進んで親切することで、相手が喜んでくれる。その喜ぶ姿を見ることで自分の喜びや有用感にもつながる。また、自分が親切にしてもらうことで、他の誰かにもしてあげたくなる。自分だけ、相手だけでなく、お互いが支え合うことで、人と人との関わりが豊かになっていくことを理解させたい。

(2) ねらいに関わる児童の実態

本校児童において、親切について尋ねると、自分が親切にしてあげた経験を語る児童が多く、たくさんの経験を話してくれる。しかし、話を聞いていくこと親切にしてもらったことも同じくらい多く、親切にもらうことが当たり前と感じている児童も少なくない。

また、自分の一方的な思いだけで親切にしまい、友達とうまく関わりを持つことができない児童も見られる。相手の立場を考えず、親切を押し付け自己満足で終わってしまい、相手に嫌な思いをさせることがないよう、相手の立場や気持ちを考えて、温かい心を持って親切な行為を進んで行うことの大切さに気付かせたい。

また、相手に親切にして喜ばれたり、自分が親切にされて喜んだりすることが、次の親切を生み出す原動力であることを理解させ、お互いの立場や考えを理解し合い、自分のできる範囲で協力し合うことが、よりよい人間関係を構築していくということに気付かせたい。

(3) 資料について

ある日、ちよの住んでいる村のはずれに、無愛想で寡黙な六べえが引っ越してくる。ちよは、村人に対する六べえの態度を不思議がるが、人にだまされ失意して村のはずれに引っ越してきたことを知る。

何とかして元気付けてあげようと毎日六べえの家にお土産持参で訪ねるようになる。毎日、お土産を届けてくれるちよの優しさに、六べえは心を開き、ちよに自分の焼いた皿を贈り、ちよのおかげで少しずつ村の中にとけ込んでいく。六べえの心の傷を自分ごとのように捉え、自分にできることをしてあげようとするちよの優しさに気付くことで、進んで人に親切にしていこうとする心情を育てることのできる資料である。

この資料は、人に裏切られ、人間不信におちいった六べえを不憫に思う主人公が、何とか勇気付けようとする内容である。悩んだり、困ったりしている人の気持ちに寄り添い、自ら進んで親切にし、互いの心を通じ合わせることの大切さに気付かせる。

まず、村の外れで誰とも関わりを持たず、一人寂しく失意の中生活している六べえの姿を見て、いてもたってもいられず、自分にも何かできないかと考える主人公の優しい気持ちに共感させたい。次に、毎日名前も告げずにおやつを持って六べえ宅を訪れ、見返りを求めることもなく、何とか六べえの悲しみを解きほぐそうとする主人公の姿に、笑顔になって欲しい喜んで欲しいという温かな心を感じ取らせたい。そして、心が解きほぐされ、笑顔になった六べえの姿を見て、喜ぶ主人公から、相手の気持ちを考え、進んで親切することの大切さを理解させたい。親切にした相手が喜び笑顔になることによって、相手だけでなく自分の喜びにもつながることから、自ら進んで温かな心で親切にすることの大切さについて児童に自覚を深めさせたい。

3 指導方針

(1) 自分の思いや考えを明確にする工夫

- ・児童の日常における課題とつながった道徳的価値の自覚を深める教師の意図あるを基に、児童の発言を予想し、整理して板書することで、可視化することができ、自分の思いや考えを明確にできるようにする。

(2) 互いの思いや考えを比較する工夫

- ・分類された児童の思いや考えを基に、比較のための補助発問を使って、他者の思いや考えを利用して比較し、相手の立場で考えることで、相手の思いや考えのよさを自分の中に取り込み、自分の考えをより深められるようにする。

(3) 自分を振り返り、自己理解を深める工夫

- ・他者の考えを取り入れて、自分の思いや考えの変容や、自分にとってどんな考えが役に立ったかを考えることで、児童が自らの成長を実感し、これからの自分の課題や目標を見付けられるようにする。

4 研究とのかかわり

本研究においては「道徳的価値を自分のこととして考える授業構想の工夫」を研究主題とし、「自分を見つめるための話し合い活動を通して」を副主題に研究を進めてきている。

本時は、道徳的価値を自分ごととし、考えが深まる児童の育成を目指すため、道徳的価値の捉えを基に、他者と関わりながら、自分の思いや考えを明確にし、自分と相手の互いの立場で比較し、自分を見つめる話し合い活動を取り入れることの有効性を、児童の発言やワークシート等を通して検証する。

5 本時の展開

- (1) **ねらい** 相手の気持ちを考え、進んで親切にしようとする心情を育てる
- (2) **準備** ワークシート 場面絵 提示物
- (3) **展開**

導
入
3
分

あなたは誰かに「親切にしてよかった」と思ったことがありますか。それはどんなことですか。

- 「親切にしてよかった」経験を想起する。写真等の提示も効果的。

○アンケートを採り、提示する。 など

展開前段 15分

○資料のあらすじを確認しながら、主人公の心情に触れる。

ちよは、どんな気持ちで六べえじいの家へ通っていたのでしょうか。

☆発言予想 ・六べえじいがさみしそう ・何かしてあげたい ・元気にしてあげたい

☆捉えたい道徳的価値 **相手の気持ちを考え、進んで親切にする**

※児童の発言から要素を取り出しまとめる

展開後段 20分

○資料から離れ、自分を見つめるための話し合い

親切にすると、誰が、どんな気持ちになるのでしょうか。

分類した思いや考え

④「自分も相手も（お互い）」の視点

- ・嬉しくなる。
- ・楽しくなる。
- ・気持ちが温かくなる。
- ・いい気持ちになる。

⑤「相手が」の視点

- ・喜んでくれた。
- ・嬉しそうだった。
- ・笑顔になった。

⑥「自分が」の視点

- ・嬉しい。
- ・良かった。
- ・楽しい。
- ・またやりたい。

思いや考えの比較

④「自分も相手も（お互い）」の視点

- ・誰かにもしてあげたい。
- ・もっと嬉しくなる。
- ・もっと仲良くできる。

⑤「相手が」の視点

異なる立場で考える

「自分はどう思ったの？」

- ・一緒に嬉しい。
- ・一緒に楽しい。
- ・自分もいい気持ち。

⑥「自分が」の視点

異なる立場で考える

「相手はどう思っているかな？」

- ・嬉しいと思ってる。
- ・ありがたそうと思ってる。
- ・自分も誰かにやってあげたい。

児童が書き込んだ視点から、多様な思いや考えを比較するための補助発問で、自己の価値観を考察していく。

深まった道徳的価値 ※児童の発言から要素を取り出しまとめる

人間理解の発問をしたい。「本当にできるの?」「自分ではできているの?」

相手の気持ちを考え、進んで親切にすると自分もうれしくなる

○自分を振り返る

終末 7分

・今日の話合いで、「すごいな」という考えや「自分にもできるかも」という意見がありましたか。

・これから、困っている人や苦しんでいる人がいたら、どうしますか。

○先生の説話

・誰かに親切にして、良かった話をする。

(4) 板書計画

「温かな心」
「六べえじいとちよ」

あなたは誰かに「親切にしよう」と思ったことがありますか。それはどんなことですか。

アンケート結果グラフ

アンケートの記述

場面絵

簡易揭示物
(ちよの心情変化を捉える)

ちよは、どんな気持ちで六べえじいの家へ通っていたのでしょうか。

子どもの意見
・六べえじいがさみしそう
・何かしてあげたい
・元気にしてあげたい

児童の発言から要素を取り出し、まとめる。

自分が

- ・嬉しい
- ・良かった
- ・またやりたい

相手の立場で考える
「相手はどう思っているかな?」

相手が

- ・喜んで
- ・嬉し
- ・笑顔だった

自分の立場で考える
「自分はどうだったの?」

お互い

- ・嬉しい
- ・心が温かい
- ・いい気持ち

変容を考える
「お互いがうれしい」と「自分も嬉しくなる」

「これからの自分」
・今日の話合いで「すごいな」という考えや「自分にもできるかも」という意見がありましたか。
・これから困っている人や苦しんでいる人がいたらどうしますか。

児童の発言から要素を取り出し、まとめる。